

絶滅危惧種 / 1

156 TWIN SPARK

アルファ・ロメオの名を、おおいに広めた156シリーズ。
なかでも、期待を裏切らない官能性を享受させてくれる
ツインスパーク・ユニット搭載車は、中古車相場も落ち着いてきて
いよいよ手を出しやすくなってきた。
しかし、その流通台数はほとんど減少中なのです。



希少！ 300台限定車

大きなリアスポイラーがそびえ立つこの156は「ロッソコルサ」。2001年7月に300台限定で売り出された特別仕様車だ。ベースは2.0ツインスパーク・セレスピードの右ハンドル車で、フロントスポイラーやサイドリアスカート、そしてフェンダーアーチなど、ボディ全周にわたって純正エアパーツが装着されている。ホイールも専用17インチ。2001年式のこの個体は走行2.9万kmと少なめのワンオーナー車。178万5000円。

取材協力：アレーゼ市川 Tel. 047-356-9596

156のツインスパーク搭載車は、156シリーズが日本上陸を果たした1998年5月から2002年7月までの約4年間にわたり販売された。いわゆる“癒し顔”とされる前期モデルのうち、バンパーモールとドアミラーがブラックアウトされているのがツインスパーク車の特徴である。当初はセダン/MTのみだったが、99年にセレスピード、2000年にはスポーツワゴンも追加されている。

「今も指名買いが少なくありません」

こう話してくれたのはアルファ・ロメオ正規ディーラー「アレーゼ市川」の吉川 武店長。ツインスパーク・ユニットの人気は、シリンダー内燃

料噴射、いわゆる“直噴”システムのJTSユニットに切り替わったあとも衰えていないようだ。

しかし、156としては低年式車となるので、当然ながらタマ数は減少傾向。なかでも保証付き販売を前提とする正規ディーラー物件においては、すでに高年式のJTSユニット搭載車が主流となっている。

ツインスパーク・ユニットが今も人気なのはなぜだろう。JTSより低年式になるぶん車両価格が安いから？ もちろんそれは一理ある。156は「カタチから入る」に足るスタイリッシュなエクステリアを持っている。

しかし、「ツインスパーク」限定で探す人が少ないのもまた事実。鋭いレスポンス、トップエンドの伸びの良さ、艶やかなサウンド……。賞賛に値する項目はいくらでも見つかる。

156ツインスパークの中古車相場は、日本導入初期の個体ではすでに100万円の大台を割っている。最終モデルとなる2002年式でさえ、走行距離が少なく高めに値付けされている個体でも200万円程度。156のツインスパークは、アルファ・ロメオの真髄を手軽に味わえる、とても魅力的な存在なのである。

Text：加納亨介／Photo：丸山ヒロト



タイミングベルト交換済み！

こちらは2001年式ツインスパークのMT車。オドメーターは4.9万kmで、タイミングベルトは交換済みとなっている。プライスボードは120万円だ。最も安心でき、かつ手が出しやすい年式/距離/価格はこのあたりだろう。ほぼフルノーマルだが、現状ではスタッドレスタイヤが装着されており、ノーマルタイヤは別途応相談。

取材協力：アレーゼ市川 Tel. 047-356-9596

